

平成 29 年度

# 事業報告書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人 八王子市学園都市文化ふれあい財団

## I 平成 29 年度財団経営の総括

平成 29 年度は、第 2 次中期経営計画の 2 年目として同計画に掲げる施策・目標の達成と、本年度経営方針に基づき、全事業に対して鋭意取り組みました。

事業面では、指定管理者として 3 文化施設、18 市民センター、14 地区会館及び 1 公園を管理運営し、200 万人を超える方々の文化・芸術・スポーツ活動の利用に供しました。実演芸術では「源氏物語第二章～朧月夜より須磨・明石まで～」や「南大沢コミュニティオペラ 2018『魔笛』」などの公演のほか、夢美術館では特別展を 6 回開催し、約 32,000 人の方に鑑賞いただきました。地域コミュニティ推進のため、八王子まつりにおいて八王子市市制 100 周年記念事業（以下「市制 100 周年記念事業」という。）として「山車総覧」など魅力あるイベントを行い、過去最高の 85 万人の来場者を迎え、フラワーフェスティバル由木、踊れ西八夏まつり及びいちょう祭りと合わせると、150 万人を超える方々に足を運んでいただきました。また、学園都市大学、大学コンソーシアム八王子及び上柚木公園においても順調に事業を実施しました。このように各施設で市民の多様なライフスタイルに応じた様々な事業を計画どおりに実施しました。

経営面では、利用料金収入において、市民センターでは過去最高の収入となり、新電力会社（PPS）との契約の継続で光熱水料費を削減できたこと、効率的な業務執行に努め支出増を抑えたことにより事業活動収支（経常収支）において「収支差額の黒字」となりました。

### 1. 中期経営計画（平成 29 年度）

#### (1) 中期経営計画の重点施策と結果

- ① 魅力ある芸術文化事業を全市的に展開し、「芸術文化薫る魅力都市八王子」を市内外に発信する  
⇒ 市制 100 周年記念事業として規模を拡大して開催した「八王子大音楽祭 2017」では、120 万人を超える事業を実施し、約 23,000 人の方に会場に足を運んでいただきました。また、100 周年記念事業の目玉事業として開催したオペラ「アイダ」は、1,400 人を超えるお客様に観覧いただくとともに、内容についても高い評価を得ることができました。2 回目となる「伝承のたまてばこ」では約 35,000 人の方々に来場していただきました。夢美術館では、6 つの特別展を開催し、100 周年記念事業の「没後 30 年 銅版画家 清原啓子」では集客目標を上回り、「誕生 40 周年こえだちゃんの世界展」、「ムットーニワールドからくりシアターⅣ」など幅広い層の方にお楽しみいただきました。
- ② 子ども・市民の文化活動、地域コミュニティ活動を支援し、豊かな市民生活実現と地域コミュニティ活性化に貢献する  
⇒ 子ども向けの事業として「2017 八王子ふれあいこどもまつり」や「オーケストラワンダーランドへようこそ！」の開催、劇団四季が行う「こころの劇場」への協力、「夏休み子どもいちょう塾」、小学生陸上競技大会「はちおうじダッシュ！」や東京八王子トレインズによる「バスケットボール教室」の実施、2 年目となる「学生演劇フェスティバル」や学校アウトリーチ、「八王子ユースオーケストラ第 1 回演奏会」を実施しました。「オペラ『万葉集』明日香風編」は約 400 人、「南大沢コミュニティオペラ 2018『魔笛』」は 2 日間で約 800 人の方々にご覧いただきました。また、地域住民協議会と連携し実施した、防災や健康などをテーマにした「コミュニティ講座」や「地域ふれあい講座」には、約 1,300 人の方々に参加いただきました。
- ③ 指定管理施設において、万全な維持管理と常に進化する運営でお客様満足の最大化を図る  
⇒ お客様の声対応システムの運用等によりお客様のニーズを的確にとらえ改善に結びつけ、常に利用者目線に立った施設運営を行ないました。
- ④ 経営基盤の強化を図る  
⇒ 100 周年記念事業等により施設利用がここ数年より増となったほか、新電力会社（PPS）との契約や LED への切替えにより光熱水料費を削減するとともに、予算執行管理の徹底等により、

平成 29 年度の決算は、「収支差額の黒字」となりました。

このことは、これまでの安定的な事業運営や地域と連携した取組みが評価されたものと受けとめています。

## (2) 課題と展望

第 1 に、市制 100 周年記念事業で得られたノウハウを今後の事業に活かしていかなければなりません。また、ユースオーケストラや市民参加のオペラなど専門性の高い事業に必要なノウハウやスキルを習得し、アートマネジメント力の底上げを図るとともに、大学など地域との連携による人材を活用していくことが重要です。

第 2 に、少子高齢化による人口減少社会の到来により、本財団管理施設の来館者や利用者の減少などが想定されるため、従来から実施している財団の情報紙やホームページを拡充するとともに、マスメディアや SNS など様々な手段で情報発信して、本財団事業の認知度を高め、新たな利用者の発掘に取り組んでいかなければなりません。

第 3 に、「八王子まつり」や「いちよう祭り」で観客数を更新している一方で、地域コミュニティ活動の担い手の高齢化が進んでおり、町会自治会加入も低迷する中、次世代の担い手を育成し、引き継いでいく取組が必要です。

第 4 に、指定管理施設では、伸び悩んでいる利用料金収入の上積みと参加者の減少が続いている事業などの見直しが課題となっています。幅広く市民のニーズを把握、分析することで、新しいサービスや事業につなげていかなければなりません。また、安心安全な施設運営をする上で、老朽化対策が課題であり、策定した施設保全計画に基づき、八王子市との協議を重ねていきます。

第 5 に、東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成につながる事業展開が重要ととらえ、管理施設における多言語表記やピクトグラム導入などを進めます。また、競技種目に関連する事業や障害者向けの事業などを実施します。

## II 事業概要

### 1. 芸術文化の振興

#### (1) 実演芸術\*

##### ① 音楽等芸術文化の鑑賞機会の提供

八王子市市制100周年（以下「市制100周年」という。）を記念し、オペラ「アイダ」を中心に八王子大音楽祭を実施したほか、様々なジャンルにおいて質の高い公演を鑑賞する機会を提供しました。

##### ア. 芸術文化会館（いちようホール）

夢美術館の企画展「カッサンドル・ポスター展」との連動企画「上野星矢 音の万華鏡フルートで語るフランス絵画」（八王子大音楽祭）をはじめ、「Yuji Ohno&Lupintic Six LUPIN JAZZ LIVE」や落語会「柳亭市馬・春風亭昇太二人会」など、多様なジャンルの公演を実施しました。



オペラ「アイダ」

##### イ. 南大沢文化会館

八王子大音楽祭の中で「ウェールズ弦楽四重奏団」、「八人の王子たち in 南大沢」、「さくらこまち和楽団コンサート」を実施したほか、人気のジャズシリーズの公演を継続実施しました。



MINAMIOSAWA JAZZ SERIES

##### ウ. 学園都市センター

オペラ「アイダ」の関連事業としてアフタヌーンコンサート Vol.12 を実施しました。

##### エ. オリナスホール八王子

「LISA ONO Bossa Nova Concert 2017」、「ドラゴンクエストコンサート交響組曲ドラゴンクエストV 天空の花嫁」、「東京交響楽団第2回八王子定期演奏会」、「ザ・チーフタンズ」、「源氏物語第二章～朧月夜より須磨・明石まで～」など、大規模な鑑賞事業を実施しました。



市川海老蔵特別公演 源氏物語第二章～朧月夜より須磨・明石まで～

##### オ. その他

八王子大音楽祭において、街中や郊外のカフェ・商業施設等で一流アーティストのコンサートを実施しました。

#### ※実演芸術

実演により表現される音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の総称。（劇場・音楽堂の活性化に関する法律 第2条）

##### ② 市民参加型普及

伝統文化・オペラ・オーケストラ・ダンス等、多様なジャンルにおいて、市民や子ども・若者が参加する体系的なワークショップと発表公演などを実施しました。

ア. 芸術文化会館（いちょうホール）

市民合唱ワークショップ及びその発表公演「オペラ『万葉集』明日香風編」や、「学生演劇フェスティバル 2017」を実施したほか、ユースオーケストラの練習、「初心者のための茶道教室」、「ロビーコンサート」など、会館施設の特徴を活用した事業を継続実施しました。

イ. 南大沢文化会館

プロの音楽家が直接指導する市民合唱や大学生による衣裳制作など体系的な複数のワークショップを組み合わせ、手作りで制作する「南大沢コミュニティオペラ 2018『魔笛』」や、大学生などを講師に招き小中学生を対象にした「MOBダンスワークショップ」などを実施しました。



南大沢コミュニティオペラ 2018「魔笛」

ウ. オリンプスホール八王子

ファミリー向けコンサート「オーケストラ・ワンダーランドへようこそ！」では、指揮者体験・楽器紹介教室・バックステージツアー・アウトリーチを実施しました。

エ. その他

前年度に引き続き、街中イベントとコラボレーションした「八王子大音楽祭 2017」では、中心市街地や郊外のカフェ、商業施設などで多くの市民が自ら参加し演奏する機会を提供しました。

③ 鑑賞型普及

市民に身近な八王子中心市街地の商店街を舞台に多摩伝統文化フェスティバル「伝承のたまてばこ」を実施したほか、「八王子車人形」の普及公演、市民オペラを広く知ってもらうためのコンサート、プロのオーケストラ団員によるトーク&コンサート、学校アウトリーチ等、普及のための数多くの事業を実施しました。

ア. 芸術文化会館（いちょうホール）

八王子市無形文化財である八王子車人形の集大成シリーズを実施し、伝統文化の普及に努めました。

イ. 南大沢文化会館

若手演奏家や市民アーティストなどの出演により、平日の午前中に市民が気軽に楽しめる「モーニングコンサート」を継続実施しました。



八王子大音楽祭エントランスライブ

ウ. 学園都市センター

「八王子大音楽祭 2017」では、八王子東急スクエア presents “エントランスライブ” を実施しました。

エ. オリンプスホール八王子

劇団四季と提携し、市内小学校の子どもたちを招待して質の高い演劇を鑑賞する事業「こころの劇場」を今年度も開催しました。

オ. 学校アウトリーチ

東京交響楽団メンバーを市内小中学校へ派遣し、楽器のわかりやすい紹介や生演奏を通じて、子どもたちが直に本物の音楽に触れる機会を提供しました。

カ. その他

「八王子大音楽祭 2017」では、市内商業施設のイベントスペースや街中カフェなど様々な会場で約1ヶ月に渡り120事業を実施したほか、「伝承のたまてばこ」では多摩地域の伝統文化を紹介し市民が身近に鑑賞する機会を提供しました。

④ 公演やアーティストへの支援

市民の芸術文化活動に対する支援のため、市民が主催する芸術文化事業に対し、当日の運営や舞台作りのアドバイスなどの人的支援や会場利用料の一部助成などを行いました。

⑤ 受託事業

八王子市市制100周年記念式典への来場者を歓迎するため、JR八王子駅南口広場及びとちのきデッキにおいて、八王子車人形の公演など八王子の伝統と文化を感じることのできる事業を実施しました。

⑥ 文化施設の管理・運営

芸術文化会館（いちようホール）、南大沢文化会館の指定管理者として、利用者満足度向上のため、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進に努めました。

ア. 芸術文化会館（いちようホール）

入場者数 234,041人 施設利用率 81.2%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 95.4% (大いに満足と満足の合計)

イ. 南大沢文化会館

入場者数 139,671人 施設利用率 89.6%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 97.7% (大いに満足と満足の合計)

(2) 美術(夢美術館)

夢美術館指定管理者として、美術鑑賞、市民参加型普及、鑑賞型普及の各事業や施設の維持管理、収蔵品の保管を適切に行いました。

① 美術鑑賞

三つのテーマ「国内外の優れた美術品の紹介」「現代の息吹と未来への展望」「地域性と普遍性」に沿ってグラフィックデザイン、玩具、近代絵画等の特別展と収蔵品展示（常設展）を開催しました。

ア. 国内外の優れた美術品の紹介として、20世紀を代表するグラフィックデザイン「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」を開催しました。

イ. 現代の息吹と未来への展望として木のおうちの玩具で知られる「誕生40周年 こえだちゃんの世界展」を夏休み期間に開催し多くの家族連れで賑わいました。

また、幻想的な作品で人気の高い自動からくり人形師ムットーニの「ムットーニワールド からくりシアターⅣ」を開催しました。



誕生40周年 こえだちゃんの世界展

ウ. 八王子ゆかりの洋画家小島善太郎らを紹介する「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱 1930 年協会から独立へ」を全国 7 館の美術館・博物館と共同開催しました。また、若くして亡くなった八王子出身の銅版画家 清原啓子を顕彰する「八王子市市制 100 周年記念事業 没後 30 年 銅版画家 清原啓子」はNHKの美術番組で紹介されるなど大きな反響を呼びました。



没後 30 年 銅版画家 清原啓子

## ② 市民参加型普及

ア. 市制 100 周年を記念して、「はちおうじ」をテーマに作品を募集した特別展「市民公募はちおうじ入選作品展」を開催し、審査員が選んだ 70 点の作品を紹介しました。

イ. 東京造形大学の学生が出品する「東京造形大学フラッグギャラリープロジェクト」は 14 回目を迎え、全国都市緑化はちおうじフェアの一環として「みどり」をテーマとした作品を商店街（ユーロード）に掲出しました。また、多摩美術大学と学園都市センターと連携した対談講座「夭折の銅版画家 清原啓子」を開催したほか、学生が参加した清原啓子作品研究の成果を特別展で紹介しました。



東京造形大学フラッグギャラリー

## ③ 鑑賞型普及

美術家や研究者のトークや図録の販売、地域と連携したスタンプラリーを行いました。

ア. 「カッサンドル・ポスター展」では帝京大学教授で群馬県立近代美術館長によるトークを開催したほか、いちようホールを会場にフルートコンサート&トークイベントを開催しました。「こえだちゃんの世界展」では日本玩具文化財団理事長、「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱」では田辺市立美術館学芸員及び夢美術館長、「銅版画家 清原啓子」では夢美術館長によるトークと学園都市センターと連携した対談講座を開催しました。また、「ムットーニワールド」ではアーティストによる上演会を 36 回開催し 3,000 人を超える参加者がありました。



ギャラリートーク

イ. 市内の東京富士美術館、村内美術館と「第 12 回はちおうじ美術館めぐり SUN☆KAN ラリー」を開催したほか、八王子美術連盟と「八王子画廊散歩」を共催しました。



対談講座

## ④ 施設の管理・運営

夢美術館の指定管理者として、利用者満足度向上のため、指定管理申請における提案書に基づき、施設、設備、備品、収蔵品の適正な管理、および受付業務（観覧料の徴収など）を行いました。

開館日数260日 施設利用・事業参加者数41,503人（うち展覧会入場者数31,981人）  
利用者満足度調査結果 総合的な満足度 97.5%（大いに満足と満足の合計）

### (3) 彫刻活用事業

「第8回わがまち八王子の彫刻写真コンクール」では彫刻のまちづくり事業により設置した103点の彫刻を活用した写真コンクールのPR・募集を行い、入賞作品をいちょうホール及びセレオ八王子北館9階イベントスペースで展示しました。

## 2. コミュニティづくりに関する事業

### (1) コミュニティの育成

ふれあいのあるまちづくりの推進及び地域住民の交流促進を図るとともに、地域コミュニティの高揚及び啓発を図るための事業を実施しました。

#### ① コミュニティづくりの活性化

地域住民の交流の場の提供及び地域コミュニティの一層の活性化を図るため、住民協議会と協働し、どなたでも気軽に参加できる「家族のしあわせ料理教室」、「からだに嬉しいヘルシー献立」などの料理教室、「ドイツ生まれの運動と脳トレを組み合わせたエクササイズである「ライフキネティック体験教室」、子どもたちを対象とした、プロバスケットボールチーム東京八王子トレインズ協力による「バスケットボール教室」、を市民センターで実施しました。



バスケットボール教室

また、市生活安全部防災課及び八王子消防署北野出張所の協力で住民協議会の方を対象に、避難所開設時の地域への期待をテーマとした講座や、実際の避難所運営を想定した避難所運営ゲーム「HUG」を使用した「防災講座」を実施しました。



防災講座「HUG」

#### ② 住民協議会連携事業

17地域住民協議会の情報交換などを行うため、総会・定例会及びコミュニティ懇談会を開催し、市制100周年をテーマとした講演会を開催しました。また、今後実施予定の次世代リーダー養成講座の前段として、「地域コミュニティの今、そして未来」と題した講演会を実施しました。

#### ③ 地区図書室の運営

読書活動の活性化と地域住民の交流を図るため、住民協議会と連携し地区図書室を開設し、「図書の貸出し」や「読み聞かせ」などを行うとともに八王子市図書館の蔵書のリクエスト受付及び貸出・返却業務などを担いました。

また、地区図書室間の情報交換の場として中央図書館職員を交えた地区図書室連絡会や地区図書室運営部員を対象に中央図書館との共催による研修会を行いました。

#### ④ その他

コミュニティ活動に供するため、住民協議会ほか各種団体にコミュニティ用具の貸出しを行い、市民センターまつりなどで活用されました。

### (2) コミュニティ活動の支援

地域コミュニティの一層の活性化を図るため、住民協議会の運営経費や八王子まつりなどの開催経費の一部を助成しました。



① 住民協議会への助成事業

コミュニティづくりの中心的推進団体である 17 地域住民協議会の活動を支援するため、運営費のほか、広報紙の発行費用、地域住民のニーズに応じて開催される「地域ふれあい講座」の開催経費の一部をそれぞれ助成しました。

② まつりへの助成事業

「八王子まつり」をはじめ、「フラワーフェスティバル由木」「踊れ西八夏まつり」「八王子いちょう祭り」の開催経費の一部を助成したほか、「八王子まつり」及び「フラワーフェスティバル由木」の事務局を担当しました。

「八王子まつり」では、山車 19 台が一堂に集結する「山車総覧」を実施し、八王子 100 年応援団長の北島三郎氏がサプライズゲストとして登場するなど大いに盛り上がりました。この模様は、ケーブルテレビでの全国生中継のほか、市民センター等でパブリックビューイングも実施しました。今年度は市制 100 周年記念ということもあり 3 日間で過去最高の 85 万人の来場者を記録しました。

「八王子いちょう祭り」では市制 100 周年を記念し、姉妹都市の盟約を結んだ小田原市・寄居町との三者によるマンホール蓋交換式を実施しました。また、「人とふれあいクラシックカーパレード」には、東京消防庁カラーガード隊・東京消防庁音楽隊及び八王子高校吹奏楽部が参加し、2 日間で 503,000 人の方に来場いただきました。



山車総覧

(3) コミュニティ施設の管理・運営

市民センター18 館及び地区会館 14 館の指定管理者として、住民協議会や地元町会・自治会などと連携し、利用者満足度の向上が図れるよう、利用案内、施設貸出及び利用料徴収などの業務、施設や設備の保守管理業務を行いました。

また、地域コミュニティの推進を図るため、市民センター内に一人でも気軽に立ち寄れる「地域ふれあいサロン」を住民協議会やコミュニティ推進員と連携・協働し元八王子・中野・由井 3 地区で実施しました。

なお、10 月 22 日・23 日の台風 21 号襲来の際には市からの要請を受け、川口・加住・横山南の 3 市民センターを避難所として開設し、住民協議会の協力のもと避難者の受け入れなど、その役割を果たしました。

さらに、市の施策である「地域福祉推進拠点」を大和田市民センター及び浅川市民センターに開設しました。

利用者数	1,577,953 人	施設利用率	60.6%	※区分利用率
利用者満足度調査結果	総合的な満足度		96.8%	(大いに満足と満足の合計)
			※市民センターの区分利用率は午前・午後 (A・B)・夜間 (A・B)	
			それぞれの利用区分数の合計を利用可能区分数で除した数	

### 3. 市民のスポーツ活動の促進

#### (1) 地域との協働

地域とのつながりを育むため、陸上競技場フィールドを開放し、ラジオ体操を行ったほか、愛宕小学校と連携し、園内の樹木観察からプレートデザインや塗装までを行う樹木プレート制作を行いました。また、小中学校や青少年対策地区委員会と地域の防犯や見守りについて情報を共有するとともに、アドプト団体やボランティア団体と協働し安全できれいな公園づくりを行いました。

#### (2) 豊かな自然の保護と活用

上柚木公園の貴重な環境資源を活かすため、自然観賞教室や「クリスマスリースを作ろう」など10事業を実施したほか、環境資源事業として、高尾の森づくりの会の協力のもと行った里山の林床再生や樹木診断調査等3事業を実施しました。



クリスマスリース

#### (3) 市民の健康増進・子どもの体力向上

市民の健康増進・子どもの体力向上関連18事業(うち後援2事業、共催4事業)を実施し、スポーツ活動の促進に努めました。

特に市内唯一の小学生対象短距離競技大会「はちおうじダッシュ!」は、市内63校、市外近隣19校から595人の申し込みがあり、当日は570人の児童の参加を得て、学年男女別50m走競技及び走り方を学ぶクリニックを実施し、児童のスポーツの普及、健全育成に努めました。

また、全国都市緑化はちおうじフェアのスポーツ体験イベント「みどりの丘でアクティビティ」を共催し、市民の健康増進に寄与しました。

「ジョギング教室」は、コニカミノルタ陸上競技部の主な選手たちが講師を務め、128名の市民ランナーがトップアスリートとの交流を楽しみました。



はちおうじダッシュ!

#### (4) 上柚木公園の管理・運営

運動施設を含む上柚木公園の指定管理者として、使用受付・貸出及び利用案内、使用料収納事務などの運営業務を行いました。また、施設や設備の保守管理や、高品質なスポーツターフ管理などの運動施設管理業務、安全安心の遊具管理など適正な公園施設管理業務を行いました。

運動施設利用人数 327,862人 施設利用率 77.9%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 94.23%(大いに満足と満足の合計)

### 4. 学園都市づくりの促進

#### (1) 学園都市大学の運営

八王子学園都市大学(いちょう塾)において、大学コンソーシアム八王子加盟の25大学等を含む講座提供機関32機関より提供された296講座を開講しました。

また、受講生の募集のため、講座案内13,000部及び市広報特集号572,000部を作成して周知を行った結果、年間受講者数は6,361人となりました。

#### (2) 大学コンソーシアム八王子の運営

##### ① 大学等連携事業

大学コンソーシアム八王子に加盟する25大学等と連携し、「夏休み子どもいちょう塾」を実施したほか、



夏休み子どもいちょう塾

FD・SD専門委員会が中心となり全国の教職員を対象とした「FD・SDフォーラム」、加盟大学等の教職員を対象とした「SD勉強会」を実施しました。

## ② 情報発信事業

情報誌「大学コンソーシアム八王子情報 Vol.12『八王子まるごと子どもキャンパス』」、  
「Vol.13『まるごとキャンパス八王子』」及び新入生のための生活便利帳「シティインデックス八王子」の発行や、SNSの活用を含めたウェブサイトによる情報発信を行いました。

## ③ 学生活動支援事業

八王子地域を舞台に学生が企画・運営・実施した「学生企画事業」について補助金を交付するとともに、その成果を発表する「学生企画事業補助金成果報告会」を開催しました。また、「八王子地域合同学園祭第12回学生天国」を共催しました。



学生企画事業補助金成果報告会

## ④ 産学公連携事業

学生による様々な分野の研究成果を発表する「第9回大学コンソーシアム八王子学生発表会」、「八王子学生CMコンテスト」を開催したほか、「八王子まつり山車曳き体験」、「八王子学生CMコンテストプレイベント」を実施しました。また、今年度初めての試みとして「八王子の都市農業に関する学生ワークショップ」を実施しました。



学生発表会

## ⑤ 外国人留学生支援事業

外国人留学生に関する課題を解決するため、加盟大学等教職員を対象とした産学公の連携による実践的な勉強会を実施したほか、留学生の就職事情をテーマにOB・OGと現役留学生の意見交換を含めた「留学生座談会」を実施しました。

## ⑥ 八王子市学園都市推進会議の支援

八王子市学園都市推進会議の事務局を担当し、「八王子地域合同学園祭ビッグウエスト学生フェスティバル2017」を実施したほか、「第38回八王子いちよう祭り・学生広場 八王子市学園都市づくりコーナー」、「第94回東京箱根間往復大学駅伝 出場校合同壮行会」及び「B・W・O学生落語会」を開催しました。



学生CMコンテスト

## (3) 学園都市センターの管理・運営

学園都市センターの指定管理者として、利用者満足度向上のため、指定管理申請の提案に基づき、利用案内、施設貸出、利用料徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進に努めました。

入場者数 182,308人                      施設利用率 91.3%

利用者満足度調査結果   総合的な満足度 98.2%(大いに満足と満足の合計)

## 5. 法人管理

### (1) 財団の管理運営

予算決算・経理・人事管理等を適正に行い、円滑な財団運営を図りました。

また、評議員会を2回、理事会を3回開催し、その決定に基づき事業を行うとともに諮問委員会を2回開催し、事業計画等の助言をいただきました。

### (2) 財団の収支改善

外部助成金、協賛金を獲得するとともに共催手数料収入を確保し、自主財源の拡大を図りました。また、引き続き14施設（芸術文化会館、コミュニティ振興課事務所、上柚木公園及び市民センター11館）において新電力会社（PPS）との契約により、電気料金を削減し、事業活動収支の改善に繋がりました。

### (3) サービス品質の向上

ISO9001 品質マネジメントシステムを運用し、マネジメントの確実性を高めるとともに、お客様の声を改善につなげ、利用者目線に立った施設管理を行いました。また、情報セキュリティポリシーを策定し、情報資産や情報機器の管理を強化しました。

### (4) 組織力強化

#### ① 人事任用制度の改革

内部人材の登用・活用を目指す人事任用制度を構築し、組織の活性化を図りました。

#### ② 人材の育成

研修計画に基づき各種研修を実施したほか、サービス介助士の習得や指定管理事業計画で提案した上級救命講習に参加させるなど人材の育成を図りました。

#### ③ 情報発信力の強化

芸術文化公演を始めとする各種催物などの情報や、本財団が管理運営する施設の利用案内を情報紙、インターネットなどを通じて市民に発信しました。また、芸術文化会館（いちようホール）・南大沢文化会館・学園都市センターでは、施設のインターネット予約・検索サービスや、ホームページでイベント情報を提供しました。

### (5) 第2次中期経営計画及び指定管理提案の目標達成

理事長、常務理事及び財団管理職で構成する「経営会議」を毎月開催し、各所管から事業の取組やその効果の報告を受け、情報の共有化を図りました。

このことで、組織的な進捗管理が実践され、当年度の目標を達成することができました。